

プログラムの途中から動作させたい (CNC-D00)

プログラム再開機能を用いることで途中からの動作が可能です。
再開機能には2つのタイプがあり、ユーザパラメータにより選択可能です。

再開機能のタイプ選択

データバンクメニューから <5. ユーザパラメータ> - <1. スイッチ1> - <運転> を選択します。

タイプ1

直前までのプログラムを実行した状態で再開します。
プログラム先頭からの命令を読み込むため
直前のモーダル状態を反映します。

タイプ2

直前までのプログラムを読み飛ばした状態で
指定した箇所からプログラムを再開する
シーケンスサーチが選択可能になります。

※タイプ2は指定した箇所までのモーダル情報は
一切読み込まないので十分注意してください

	プログラム再開	シーケンスサーチ
タイプ1	○	×
タイプ2	○※	○

※カーソル操作不可



プログラム再開機能 (タイプ1)

I. シーケンス番号を入力して再開する箇所を指定する方法

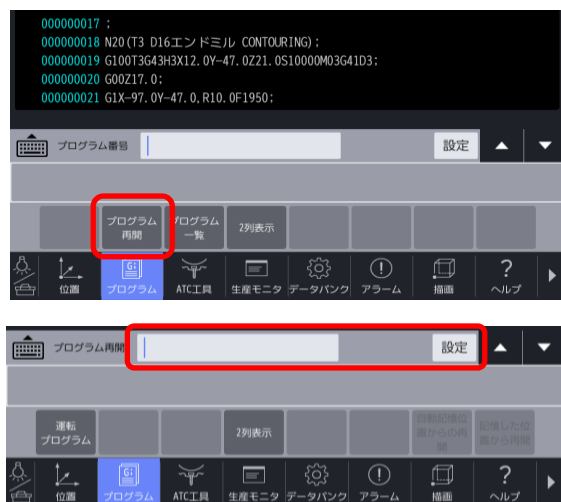
①【メモリ運転】キーが押された状態で
プログラムメニューを開き、実行する
プログラムを選択します。

②<プログラム再開>を押します。

③再開したい箇所のシーケンス番号を
入力し、EOBボタンを押します。

例) : シーケンス番号10から再開する場合
→ 「10」と入力

④起動ボタンを押すことで、指定した箇所から
プログラムが動作します。



II. ブロック番号（プログラムの行数）を入力して再開する箇所を指定する方法

①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②<プログラム再開>を押します。

③再開したい箇所のブロック番号（行数）の前に「B」を付けて入力し、EOBボタンを押します。

例) : プログラムの30行目から再開する場合
→ 「B30」と入力

④起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。

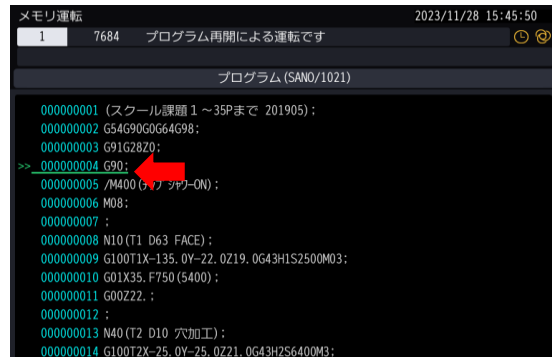


III. カーソルキーで再開する箇所を指定する方法

①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②上下のカーソルキーを用いて、緑色の実行ポインタを再開する箇所まで移動させます。

③起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。



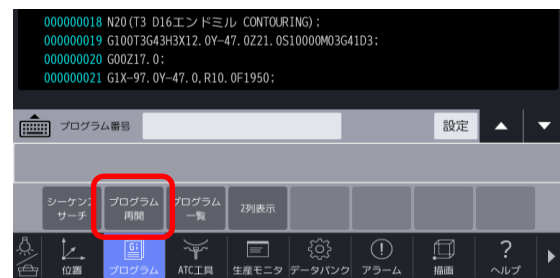
プログラム再開機能（タイプ2）

1. 直前までのプログラムを実行した状態で再開する場合

①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②<プログラム再開>を押し、再開する箇所を入力した後、起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。

※入力方法はタイプ1の I IIと同様に、シーケンス番号を指定する場合は数字をそのまま入力し、ブロック番号を指定する場合は数字の前に「B」を付けて入力する。



2. 直前までのプログラムを読み飛ばした状態で再開する場合

I. シーケンス番号を入力して再開する箇所を指定する方法

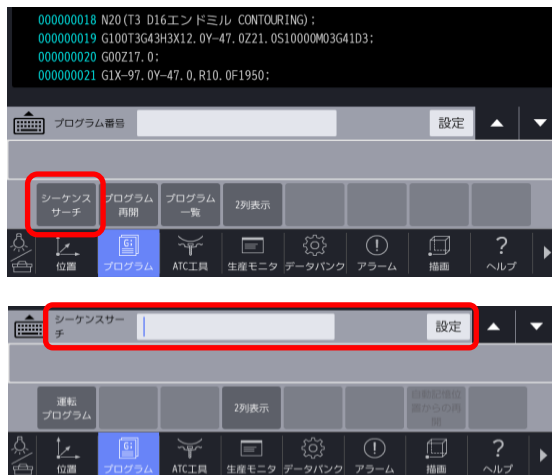
①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②<シーケンスサーチ>を押します。

③再開したい箇所のシーケンス番号を入力し、EOBボタンを押します。

例) : シーケンス番号10から再開する場合
→ 「10」と入力

④起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。



II. ブロック番号（プログラムの行数）を入力して再開する箇所を指定する方法

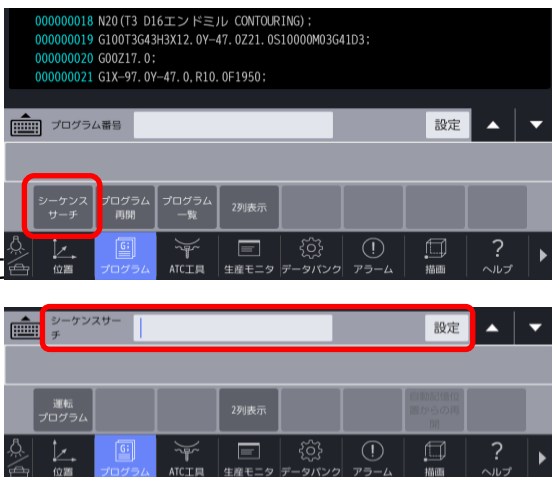
①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②<シーケンスサーチ>を押します。

③再開したい箇所のブロック番号（行数）の前に「B」を付けて入力し、EOBボタンを押します。

例) : プログラムの30行目から再開する場合
→ 「B30」と入力

④起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。



III. カーソルキーで再開する箇所を指定する方法

①【メモリ運転】キーが押された状態でプログラムメニューを開き、実行するプログラムを選択します。

②上下のカーソルキーを用いて、緑色の実行ポインタを再開する箇所まで移動させます。

③起動ボタンを押すことで、指定した箇所からプログラムが動作します。

